漢和辞典の使い方

はじめに

昨今生徒が辞書を引く場合、紙の辞書や電子辞書に加えて、スマートフォンの辞書アプリやインターネット上の辞書を使用する者まで幅広く見受けられる。手軽に辞書を引けることは何よりであるが、漢和辞典にはかなり膨大な情報が記載されており、どのように活用したらよいかは初学の段階で一度教員から伝えるとよいだろう。

漢和辞典を手にとってみると、まずは序文や凡例が書かれている。漢和辞典は基本的に、漢文を読むのに資することを想定しており、用例も概ね漢籍から取られている。国語辞典にも漢字や熟語の説明は記されているが、漢字と熟語がそれぞれ五十音順に掲載されているため、漢字の意味とその漢字を用いた熟語とを一度に俯瞰するには不向きであることを確認しておきたい。

漢和辞典の構成

各辞書の凡例をご覧いただくと辞書ごとの構成が詳しく説明されている。生徒が手に取る小型の漢和辞典を例に見てみると、親字を配列してその意味や用法を説明し、その後に熟語を載せている構成が見て取れる。親字は『康熙字典』に基づく部首ごとに配列され、各部首の画数が少ない漢字から順に配列してある。また、部首内での画数が同じ場合は、代表的な字音または常用音訓の五十音順に配列されている。

親字の字体は、『康熙字典』の字体に従っているものが多いが、「常用漢字表」（＊1）および「人名用漢字表」（＊2）に含まれる「常用漢字」「人名用漢字」は、それぞれの表に拠って表示されているものも多い。また、概ね旧字体や異字体が併記してある。余談になるが、字体・字形については、文化庁から「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）について」（平成二十八年二月二十九日付）（＊3）が出されており、こちらも指導の上で参考にしていただきたい。

親字の中でもとりわけよく用いられる漢字として「教育漢字（常用漢字のうち、小学校で学習する漢字）」や「常用漢字」「人名用漢字」などがあるが、色を変えたり記号を付けたりして、それと分かるようになっている場合が多い。また、日本で作られた漢字（国字）には、それと分かるような記号が付けられている。

漢字の読み方については、字音（中国から伝わった漢字の音）と字訓（漢字の意味を表す日本固有の読み方）が示してある。字音は、漢音・呉音・唐（宋）音、および日本で慣用的に用いられている慣用音を、それぞれ分かるようにカタカナで示してある。字訓はひらがなで示し、送り仮名の部分にはハイフンなどで切れ目が入っている。

謝　シャ（漢音）　ジャ（呉音）
　　あやま-る

また、字音の異なりによって意味が異なる場合は、字音によって意味を分けて表示してある。

易　イ…やさしい
　　エキ…交換する

詩韻については、高校の学習ではあまり触れることがないが、漢詩の押韻を考える上では重要な知識である。一般的には平水韻の分類に基づく韻字が示され、その四声（平声・上声・去声・入声）が何らかの記号によって示されている。

他に現代中国音がピンイン方式によって示されている場合もある。

次に字義についてである。漢字は長い時間の中でいくつもの意味が派生したため、一字多義となっている字が多い。

謝　①わびる　②礼をのべる　③ことわる
　　④告げる　⑤入れ替わる

そこで、漢和辞典では字義の説明に加えて、その字義で漢字を用いた熟語が提示されている場合が多い。熟語となることで漢字の意味が確定され、理解しやすくなるためである。漢文を読む場合にも意味の分かりにくい字は熟語を想起する、という考え方は役立つことをぜひ生徒にご説明いただきたい。ただし、すべての語義に熟語が存在する訳ではなく、区別の難しい場合もあることを付記しておく。

①わびる「謝罪」　②礼を述べる「謝恩」
③ことわる「謝絶」　④つげる　⑤入れ替わる「代謝」

また、漢字には日本語独自の意味用法が定着している場合もあり、現代日本語の中で用いられる用法を「日本語用法」として取り立てて説明している場合もある。

頂〔日本語用法〕「もらう」、「食べる」などの謙譲語

〈熟語〉

字義の説明の後には、その漢字を一字目に用いた熟語とその意味が配列されている。配列は主に二字目以降の読みの五十音順に従っている。基本的には、親字が前につく熟語が配列されるが、親字が後につく熟語について、最後に示す場合もある。

熟語の意味については、漢字の場合と同様に①②③…、さらにはアイウ…と分けて示してある。日本語特有の意味及び和製漢語については、それと分かるような記号を付してある。

そのほか、日本の古典や地名・姓氏名、動植物名、西洋人名、地名の漢字表記など、当て字、熟字訓や読み方の難しい語は「難読語」などとしてまとめて表示されることが多い。

＊1　常用漢字表（平成二十二年内閣告示第二号）
(https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/pdf/joyokanjihyo_20101130.pdf)
＊2　人名用漢字表
(https://www.moj.go.jp/content/001131003.pdf)
＊3　文化庁「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告　平成二十八年二月二十九日　文化審議会国語分科会）」
(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92550601_01.pdf)

漢和辞典の引き方

教科書一二四ページにフローチャートで示したが、漢和辞典で

漢字を調べる場合、漢字の読み方が分かる場合には音訓索引で調べるのが手早い。それぞれの音訓の中は画数順に漢字が並んでいる。「謝」を調べるには「シャ」の項目または「あやまる」の項目を調べることになるが、「シャ」は同音異字がたくさん存在するため、次に画数で十七画目を探すことになる。同訓異字は同音異字に比べて少ないため、音訓索引による検索では、字訓で引く方が手早く検索可能である。

もし漢字の読み方が分からない場合は、部首索引を用いて検索をする。部首の当たりをつけて当該部首のページを開くと画数順に漢字が並んでいるので、そこから探すこととなる。現在多くの漢和辞典が採用している部首は『康熙字典』の二百十四部首だが、各社ともに検索がしやすいよう、『康熙字典』の分類には含まれない部首を新たに設けている場合もある。また、漢字のどの部分が部首になるのか、というのは一概には言うことが難しく、生徒が当たりをつけた部首に掲載されていない場合もある。「夢」は「夕」部に分類されるが、多くの生徒は「艹（艸）」部を検索するだろう。最近の辞書では誤った部首で検索をしても、その漢字が掲載されているページへと誘導してくれるものも多い。

音訓も部首も不明な場合は、総画索引を用いて検索をする。総画索引は画数の少ないものから順に、また同じ画数の中では部首ごとに漢字が示してある。頭から全部目を通していけば見つけることは可能だが、結局は部首の当たりをつけて探した方が早い、ということになる。

漢和辞典の辞書アプリケーションについては、『漢辞海』、『新字源』、『新漢語林』、『漢字源』を購入することができる。スマートフォンやタブレットといったデバイスでも検索可能であり、紙の辞書と同様に例文や付録も掲載されている。

また、パソコンにインストールして使用するソフトとしては、『新字源』や『新漢語林』、『漢字源』が購入可能である。

アプリやソフトの便利な点は、デバイスの検索結果を直接黒板などに投影できる点である。漢字の意味がたくさんある場合など、生徒と一緒にどの意味に該当するのか、と確認をしながら授業を進められ、意味を確定する作業を共有することで生徒自身が漢和辞典を活用するサポートにもなるだろう。

他にオンラインで利用可能な漢和辞典もあるので、以下に紹介する。生徒が一人一台のデバイスを利用できる場合などでは、活用いただきたい。

・**「漢字辞典 online」**

漢字の部首・画数・読み方・筆順・意味などを調べることができる漢字辞典サイト。その漢字を使った難読読み、四字熟語やことわざなどもあわせて掲載されている。

（https://kanji.jitenon.jp/）

・**「goo 辞書」**

漢検「漢字ペディア」、小学館「デジタル大辞泉」に収録された約五〇〇〇項目の漢字がまとめて検索できる漢字辞典。漢字の画数、部首、読み方、意味などが調べられる。

（https://dictionary.goo.ne.jp/）

P124

言葉と表現の解答例

1 **次の熟語の意味を漢和辞典で調べ、熟語の構造を考えてみよう。**

(1) **気絶**　(2) **非難**　(3) **是正**　(4) **必要**
(5) **啓蒙**　(6) **暴露**　(7) **暴発**

【答】

(1) 息が途絶える。「気（き）」＋「絶（たユ）」の主述関係。
(2) 他人の欠点や過失を責めとがめる。「非（そしル）」＋「難（なじル）」の並列関係（同格二字）。
(3) 誤りを正しなおす。「是（ただス）」＋「正（ただス）」の並列関係（同格二字）。
(4) どうしても〜しなくてはならない。「必（かならズ）」＋「要（もとム）」連用修飾。
(5) おろかな者・知識の浅い人を導き、はっきりわからせる。「啓（ひらク）」＋「蒙（くらキモノヲ）」の述語＋目的語。
(6) そとにさらされる。かくれていたことをあらわにする。「暴（あらハス）」＋「露（あらハス）」の並列関係（同格二字）。
(7) 事件などが突然起こること。「暴（にはかニ）」＋「発（おこル）」の連用修飾。

▼ポイント▲ 熟語を漢和辞典で引いて意味を確認し、その後、構成する漢字の意味を漢和辞典で確認するとよい。いくつも載っている意味のうち、どの意味で熟語に用いられているのかを考えさせたい。また、その意味を踏まえて、熟語の構造を考えさせたい。

2 **次の漢字や熟語の意味を漢和辞典で調べ、現代日本語の意味との違いを確認してみよう。**

(1) **鬼**　(2) **城**　(3) **故人**　(4) **人間**
(5) **百姓**　(6) **小人**　(7) **学者**

【答】

(1) 〔漢文〕亡霊。死者。（「キ」と読む）〔日本語〕おに。
(2) 〔漢文〕都市の周りの城壁。町。〔日本語〕武士の居館。
(3) 〔漢文〕昔なじみの人。旧友。〔日本語〕死んだ人。
(4) 〔漢文〕人の世。世間。（「ジンカン」と読む）
〔日本語〕ひと。人類。
(5) 〔漢文〕庶民。人民。（「ヒャクセイ」と読む）
〔日本語〕農民。
(6) 〔漢文〕身分の低い者。つまらない人物。（「ショウジン」と読む）
〔日本語〕幼い人。こども。
(7) 〔漢文〕学問をする者。学問を志す人。
〔日本語〕学問や研究に従事する人。研究者。

▼ポイント▲ 漢文を読み進める上で、後々登場してくる日漢異義語を挙げた。百姓のように読み方からして異なる場合もある（ヒャクセイ／ヒャクショウ）ので、合わせて確認させたい。

（宮　利政）